

4. インターネットへの情報発信

公式ホームページについては、昨年度から公式ホームページを作成するための特別委員会が設置された。ホームページの公開は、社会に開かれた学校であるためのひとつの方法と位置付けている。このホームページを通して、学校行事および生徒の活動の様子や入試要綱などの情報提供を今後も充実させ、本校についての理解を得られるよう努力していきたい。また、学校の公開という点からすると、各教科での学習活動についても、その情報を提供することは重要であると考え。現在、理科の化学において、化学 II の授業用資料を教育学部実践研究指導センターの協力を得て、その一部を公開している。

5. おわりに

コンピュータの台数も増え、日常的に利用できる環境が整いつつあり、また、いろいろな試行を行ってきた経験もある。これを日ごろの教育の中に定着させ、有効に活用することが今後の課題となっている。

その2 生徒によるホームページ作成

教育学部附属高等学校 横野 健二



1. はじめに

1995年、本校コンピュータ・ルームのコンピュータが Window95 を搭載したマシンに切り替わり、翌 1996 年には、英語科と化学科の教官室に学内 LAN に接続したコンピュータが設置された。その後、他の教官室にも順次コンピュータが入り、附属高校もネットワーク化の道を順調に歩んでいる。

このような状況の中、生徒に対するコンピュータ教育も新たな形での展開を向かえることとなり、1997 年より一年生を対象に、ホームページの作成を最終目標とする授業が「国際・文化科(国際情報)」の名称で実施されることとなった。

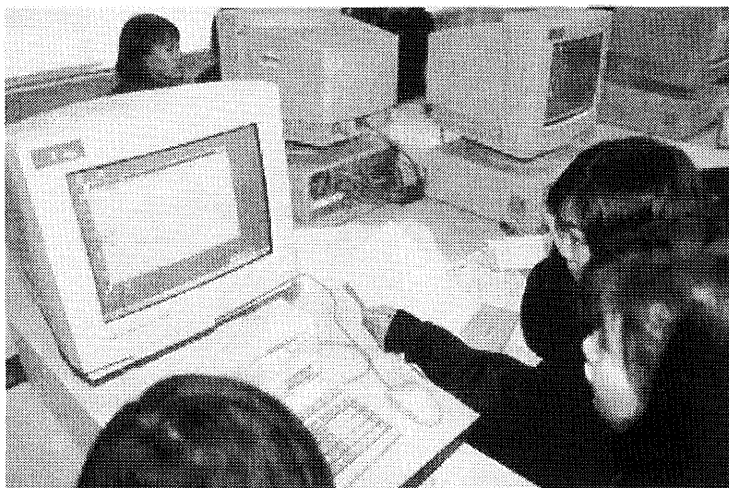
2. 年間の授業計画

コンピュータの基本操作への習熟から始まり、インターネットの体験的学習を経て、最終的にはグループ別にホームページを作成させるこの授業は、昨年度は以下の年間計画に基づいて実施された。

[一学期]:コンピュータの基本操作, 文書作成(英語), メール送信(本校英語科教官宛て)

[二学期]:HTML講座, ホームページ閲覧(ネットサーフィン), オンライン・チャット

[三学期]:HTML講座, グループ別ホームページ作成



真剣に操作方法を勉強する生徒達

コンピュータに対する習熟の度合いは、生徒によって大きな差があり、まったく使ったことがない生徒から、ホームページ作成まで一応経験済みの生徒まで見られたが、授業実施においては、コンピュータ未経験者を基本的な授業対象者と考えて授業内容を計画した。

3. 生徒の取り組み状況

それまでコンピュータを利用したことがない生徒はもちろん、本校入学以前に一通りのことを経験してきている生徒も、コンピュータを操作することには非常に高い関心を示した。少しずつではあるが、自分達がコンピュータを使えるようになることに一定の達成感、成就感を感じているようであった。また、グループ別で作成するホームページの内容に関しては、一定の品位・節度の守ることと、個人情報公開に対しては慎重な態度をとることの2点を注意として与えた以外は、生徒の自主的な判断に任せ、むしろグループごとの個性の現れたページ作りを奨励したため、その事が彼らの創作意欲を刺激し、生徒達は積極的に授業に参加し、活発な活動がコンピュータ・ルーム内で展開されていった。さらに、各生徒の到達度の違いは、上級者が初心者を教えるという、よい形での集団力学の発現へとつながっていった。



和気あいあいとページ作成に取り組む生徒達

4. 生徒作成のページの内容

合計38のグループが、それぞれに美しく個性的なページを作成し、現在それらは附属高校のホームページの一部として公開されている。以下の URL がグループ一覧のページになっており、各グループのページへはそこから LINK でつながっている。

<http://www.ed.kanazawa-u.ac.jp/~hswwww/stpages/List.html>

なお、本稿の終わりに彼らの作成したページの一部を紹介しておいた。

彼らの作成したページには主として以下のような特徴が見られた。

- ・ 自己紹介, 本校の紹介, 自分の趣味の分野の紹介が主な内容。
- ・ 多くの自作の画像の使用。
- ・ 個性的なレイアウトへの指向。
- ・ 様々なサイトから見つけてきた多様な素材の使用。(主として画像)
- ・ Link の効果的な利用。(かつてのアドベンチャー・ゲームブックのスタイルまであり)

また一部のグループのページには、自作のアニメーション Gif, クリックブルマップ, Java Script, 凝った表の作成, 画像のスキャニングなど、授業では取り上げなかったレベルの技術の利用も見られた。

5. 生徒達の受け止め方

授業後に行ったアンケート調査からは、今回の授業に対する以下のような受け止め方が現れていた。中には、授業の進め方に対する不満や授業の目的などに対する疑問も出されていたが、おおむね今回の活動が生徒達には好評に受け止められてたと考えていい。なお調査対象母集団は、昨年度この授業を受けた現在の2年生 123 名中の 118 名である。(5名は調査当日欠席していた)

授業での活動に関して

- ・ 「ホームページ作成は有益、もしくは興味が持てた」と回答した生徒は 89 名(75.4%)
- ・ 「ホームページ作成は楽しかった」と回答した生徒は 77 名(65.3%)

授業の成果に関して

- ・「コンピューターに対する興味・関心が高まった」生徒は 80 名(67.8%)
- ・「インターネットに対する興味・関心が高まった」生徒は 73 名(61.9%)

また、個別には以下のようなコメントが生徒からは寄せられている。

- ・ホームページ作成は、最初は何を書けばいいのか、何から始めればいいのかわからなくて、すごく面倒くさくて、嫌だったけど、最後の方になって、苦労して画像を取り入れることができたり、色をつけたりできて、どんどん楽しくなってきた。
- ・とっても役に立ち、すごい私にとってプラスの多い授業でした。

6. 学習活動としての有用性

今回の実践を通して、ホームページ作成は以下のような有用性を持つことが考えられる。

「コンピューターの基本的な操作の習熟」に関して

- ・有意義な動機付けを与える。
- ・使用を通じた実践的な学習として機能する。

「情報発信の可能性の認識」に関して

- ・インターネットに対する興味・関心を高める点で、効果的である。

「総合的学習」との関連に関して

- ・内発的な動機付けに基づく主体的学習の一面を持ち、より高いレベルを目指した能動的学習姿勢を育成する。
- ・上級者が初心者を指導するという、よい形の集団力学を生徒間に発現させる。
- ・生徒に自己表現の機会を提供する一面を持っている。

* 生徒作成のページの一部

